

2021年9月1日

世界 REIT はコロナ感染再拡大懸念で揉み合い

8月の世界主要 REIT は、米欧が高値圏での揉み合いとなった一方、新型コロナウイルス変異株の感染者数が増加傾向にある日本は見送られた。ロイターの集計によると、8月末時点の各国感染者数のピーク比は、米が 64%、独が 37%、仏が 32%、西が 20%に対して、日本は 89%と高止まりが続いている。

また、豪州はコロナ感染拡大で主要都市のロックダウン長期化が懸念されるものの、長期金利低下で地合いが好転。星は東南アジアの新興国市場の感染拡大に引きずられる形で下落した。

世界 REIT は引き続きコロナ感染拡大リスクとワクチン普及に伴う経済正常化期待との綱引きが続いているが、市場はリスク回避を特に急ぐことなく、様子見モードに入ったかに見える。

米 REIT は小幅上昇 半期決算は概ね好調

米国 REIT セクター別騰落率（8月30日時点）

	8月(%)	年初来
All Equity REITs	+1.5	+28.6%
オフィス	▼2.3	+15.9%
住宅	+0.5	+42.1%
小売り（商業施設）	+2.6	+38.7%
個人用倉庫	+4.5	+50.4%
産業（物流施設）	+2.8	+30.9%
インフラ	+2.3	+27.6%
データセンター	+3.9	+18.2%
ヘルスケア	▼3.7	+14.7%
ホテル/リゾート	+1.4	+11.9%
材木	+5.2	+11.3%
多角	▼0.6	+23.0%
モーゲージ	+2.4	+19.1%

<出所> FTSE Nareit U.S. Real Estate Index

8月の All Equity REITs Index は 1.5%と僅かに上昇した。8月半ばに米 REIT の第2四半期決算がほぼ出揃い、約 75%の米 REIT が市場予想

を上回る好決算となった。取り分け産業（物流施設）、住宅、個人用倉庫等ウイズコロナの恩恵を受けたセクターは軒並み好業績だった。

また、アフターコロナで経済活動正常化が進むとの期待からヘルスケアやホテル/リゾート、小売りセクターの業績は回復したが、オフィス等のコロナ禍で逆風を受けたセクターは業績がまちまちだった。

J-REIT は下落 増資懸念で市場は様子見モード

8月の J-REIT は揉み合いが続いた。東証 REIT 指数は▼0.8%と僅かに下落し、昨年 11 月から続いた連騰記録は 9 カ月でストップした。

下落の主因は、国内の新型コロナウイルス新規感染者数が過去最高を更新したことに加え、公募増資の増加による需給悪化を市場が嫌気したことにある。8月はイオンリートや大和ハウスリートが増資を発表したが、9月も引き続き同規模の増資が予想されており、投資家は慎重姿勢に転じている。

8月のセクター別パフォーマンスは、オフィス▼2.2%、住宅▼0.1%、商業・物流等 0.4%とオフィスのアンダーパフォームが目立った。

7月の J-REIT は外人投資家の買い越し続く

東証が発表した 7 月の J-REIT 投資部門別売買動向によると、外人投資家が +314 億円、金融機関が +38 億円買い越した一方、投資信託が ▼266 億円、個人投資家が ▼212 億円売り越した。

外人投資家は 2 月以降 6 ヶ月連続で買い越ししており（合計買越額 2,693 億円）、投資口の売買シェアが 43%に達する等引き続き J-REIT 相場の牽引役となっている。

昨年来続いてきた FTSE グローバル株式指数の J-REIT 組み入れに関連した指数連動ファンドの買いや、それに纏わる先回り買い等の外人投資家の買い需要が 6 月で終了したことで、市場では 7 月以降は上値が重くなるとの弱気な見方

2021年9月1日

が優勢だったが、外人買いは7月に入っても続いている。引き続きJ-REIT最大の買い手となっている。今後の外人投資家の動向が注目される。一方で、投信や個人投資家は依然売り越しが続いている。投信は1月から7カ月連続、個人投資家は昨年7月から13カ月連続で売り越しが続いている。いずれもJ-REIT相場が上昇すると小まめに利益確定に動いており、リスクテイクに慎重な投資姿勢が続いている。

なお、日銀のJ-REIT買い入れ実績は7月もゼロだった。3月の金融政策決定会合で買い入れ目途の撤廃が決まって以来、買い入れゼロが続いている。

物流REITの雄米国Prologisが好決算を発表

米国のPrologis Inc.が2021年第2四半期決算を発表した。決算ハイライトは次の通り。

<賃料>世界的なeコマース需要の拡大による良好な事業環境を反映して、今年の賃料上昇率の予測を、米国内では10.3%(+40bps)、世界市場では8%(+300bps)に引き上げた。

<FFO(Fund From Operation)>一株当たりの

Core FFO(調整済FFO)は\$1.01/株となり、アナリスト予想を2%程度上回った。通期の見通しも\$4.04~4.08/株に上方修正した。

<その他>物件の稼働率は96%と前年同期比で60bpsアップ。更新時賃料の伸びは31.5%と驚異的に上昇し、NOI成長率は同9.1%となった。

<今後の見通し>同社ではeコマース需要は今後も拡大が見込め、既存の消費財に加えて野菜や食料品等価格の大部分を物流費が占めるセクターに成長余力があると予測している。

一方でeコマース需要はそろそろピークを打つとの見方もある。同時期に発表された米国アマゾン・ドット・コムの同決算では、eコマース部門の売上高成長率が44%から16%に減速し、パンデミックによるeコマースの成長が、ワクチン効果で減速に転じたことを示唆している。

eコマース需要の将来予測は、世界の物流不動産セクターにとってアフターコロナの大きな試金石になりそうだ。

(論説 井出)

◆◆◆ マーケット情報 ◆◆◆

	2021/7	2021/8	騰落率
日経平均	27,283.59	28,089.54	+3.0%
TOPIX	1,901.08	1,960.70	+3.1%
NYダウ	34,935.47	35,360.73	+1.2%
NASDAQ	14,672.67	15,259.24	+4.0%
① J-REIT	2,160.33	2,142.91	▼0.8%
② 米国REIT	260.17	265.43	+2.0%
③ 欧州REIT	2,464.95	2,527.49	+2.5%
④ 豪州REIT	1,558.30	1,648.03	+5.8%
⑤ 星REIT	275.91	267.32	▼3.1%

<出所>①東証REIT指数

②FTSE Nareit All REITs Index

③FTSE EPRA/Nareit Developed Europe Index

④S&P/ASX200 A-REIT指数 ⑤S&PシンガポールREIT指数

